**学びは無駄になるか？**

**《共通テスト英語民間試験・記述式問題の見送り》**

　今年の学校教育に関する動きの中でも大きな影響を与えると思われるのが，大学入試共通テストに関わっての民間試験活用の実施延期（11月１日発表）と記述式問題の見送り（12月17日発表）の二つのできごとです。私立大学を含め国公立大学を軸とする大学入試においては，受験生や保護者を含めて関わる人の数の多さと期待値の大きさや大掛かりな仕組の在り方，模擬試験・予備校・塾・受験関係書籍などの利害的な要素も複雑で影響は測り知れないと思われます。

平成26年12月の「高大接続答申」に沿った政策であり，平成28年12月の「新学習指導要領答申」で示された方向性とも合致する大学入試改革の大きな柱が頓挫したことになるので，教育政策の進展の面からも大きな影響・余波があるものと思います。

**《テレビ等の報道》**

　大学入試という多くの人に直接的な関りのあることに関する大きな政策頓挫が与える影響は極めて大きく，ことは単純な教育論議ではなく，政治的な力学の在り方，社会的な価値観の在り方も含めた論議としてテレビ等においても大きく取り上げられました。マスコミ報道の在り方については，いつものことながら，報道姿勢として特定の方針ありきの組み立てが目立ちました（部分現象批判，表層的論議視点等も含めて）が，その内容には識者コメントをはじめ，学校関係者コメント，街頭インタビューコメントにも受験生（高校生）を含めて次のようなものが多くありました。

◎受験生が振り回され犠牲になる政策変更であり，許しがたい。

◎受験生が費やした時間と労力が無駄になるものであり，時間と労力を返してもらいたい

◎受験を控えて直前で変更するのは可哀そうだ

◎受験生の率直な声・意見を受けとめてもらいたい

　もちろん，インタビューに答えた人たちの中で報道方針に合致したものをメインに，しかも部分的に使用したものと思われますが（中には，受験年度を思い違いしていると思われるのもありました），気になったのは，その報道内容を組み立てた大人（大学受験の経験者も多いと思われます）と受験生の「受験前提の学びの捉え方」の皮相性です。突発的なインタビューですので，充分に練って答えた人は少ないと思われますが，だからこそ，端的にその人の考えが表出されたとも考えられます。

**《学びの捉え方について》**

　今回の報道内容の組み立てに関わった大人



が体感してきた学びの捉え方や，自身のインタ

ビューが報道に使われた高校生の日常的な学

校の授業の在り方（場合によれば，予備校・塾

等も含めて）自体が，皮相的・部分対策的な学

びの捉え方であり，学校での学びと受験勉強

は全くの別物と捉えられている可能性を感じ

ました。

私は，今回の事柄は，経費の要素は措くと

しても，検定試験に向けた英語の学習の積み

重ね，記述式問題への対応を意識した思考力

・判断力・表現力を高める努力の積み重ねその

ものが「学び」であり，大学受験の基盤となる学習活動であると捉えるのが良いと思っています。該当学年である高校２年生の段階で，こうした積み重ねが無駄になることはないどころか，学習活動そのものだと思っています。

右の図は中教審・文科省で整理されている「学力の３要素」と呼ばれるもので，「生きる力」の根幹だと捉えられているものです。自分や生徒の成長や学びの中に，さらには日常の授業の中に，どんな要素が介在しているか，どんな繋がりや構図になっているか，しっかりと整理しておくことが大事だと思っています。